

「できた」を次につなげる！ (学校支援本部「寺子屋」・永福小)

寺子屋は、友達や地域の方々とのかかわりを通して安心して過ごしながら、まずは学校の宿題を終えることを中心に取り組む放課後学習の場です。自分でできる喜び、達成感を味わわせることを目的とし、現在は15名程度の児童が参加しています。

学校支援本部に「寺子屋実行委員会」を設置し、同委員会を中心に運営しています。見守りは、学校支援本部内にある「永福ボランティア・グループ（主に同窓会のメンバーで構成）」に依頼をし、常時4名の地域の方がサポートしてくださっています。

すぐに取り組む児童、おしゃべりを楽しんでから取り組む児童等、それぞれが自分のペースで課題に取り組んでいました。地域の方は、みなさん、児童一人ひとりの話を受け止め、「今日は何をしようか？」や「どうしたらできるかな？」といったような児童に考えさせる言葉かけをしていました。ときには、時間を忘れて楽しんでしまう児童もいます。そのときは、しっかりすべきことやこの教室の目的を伝えてくださっています。親や教員といった「たて」の関係でも友達といった「よこ」の関係でもない、「ななめ」の関係だからこそ話しやすい、受け入れやすいということがあるのかもしれない。

児童との接し方や運営について、振り返りを重ね、全員で共有することで改善を重ねてきたそうです。そうした取組が、児童との良好な関係に表れていました。



皆さん児童の声をしっかりと受け止め、温かく見守っていました。個々の好きなことを話題に楽しく会話するなど、一人ひとりに寄り添っている様子が伺えました。



空いた時間を有効に活用し、今日の振り返りをしたり、課題を出し合ったりしています。こうした時間が、児童が安心して学習に取り組む場を支えているのだと思いました。



参加する児童は、学習のはじめに今日のめあてを自分で決めます。学習が終わると振り返りをし、それに対してサポーターの方がコメントをしています。



パーティションで区切り、学年を分けて実施しています。参加する児童は、在籍学級からそれぞれ集まりますが、決まった席に座り、今日することやめあてをシートに書き、学習を進めていました。

